大阪公立大学
Osaka Metropolitan University
学術情報リポジトリ

キュナードQM2でのノロウィルス対応について

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2017-05-18
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 堀江, 珠喜, 田中, 博
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/15371

キュナードQM2での ノロウィルス対応について

大阪府立大学教授　堀江珠喜
個人会員　田中　博

本年２月のカーニヴァル・トライアンフの火災による電気の喪失での航行不能など、楽しいはずのクルーズもトラブルに巻き込まれることがあります。QM2においては過去に電気系統のトラブルを経験したことがありました。2010年９月３日NY発のニューイングランドクルーズでは、ハリケーン・アールの接近により出港が半日遅れ寄港地が一つ抜港となった後、９日のケベック停泊中、午前10時頃（各種証言と船外から撮影した写真などから推定）電源設備の異常が発生し、エレベーターからトイレ排水ポンプまでが一時使用不可状態となり、田中が帰船した午後２時半頃には照明やエレベーターなどは回復していたものの、修理や制御システムの順次立ち上げに時間がかかったのか出港は６時間遅れでした。帰路が全て航海日にもかかわらず遅れは取り戻せずNY着も予定より３時間半遅れました。事故発生後からNYに着岸するまでの間、遅延による乗客への影響と対応策への懇切丁寧なワーナー船長の説明が何回もおこなわれたのでかえって船会社への信頼度が増した印象が残っています。この電源トラブルとの関係は不明ですがQM2は同年・同月の23日にバルセロナへの途上でハーモニックフィルターが爆発する事故を起こしています。
(http://www.maib.gov.uk/publications/accident_flyers/accident_flyers_2011/rms_qm2.cfm　MAIB 発表資料)

さて2012年12月22日より１月３日までのNY発着のQM2カリブ海クルーズ中、ノロウィルスが発生しました。
2012年において船内でノロウィルス患者が発生したクルーズ船は米ABC放送によると16隻だったそうです。

そこで今回の乗船では、めったにないノロウィルス発生を経験したことに絞り報告いたします。

＜2012年12月の発生状況＞

今回のQM2でのノロウィルス患者の発生については12月29日（時差から28日のところも）にはマスコミが報道し始めましたが、公的なリポートはアメリカ疾病管理予防センター（Centers for Disease Control and Prevention：CDC）（http://www.cdc.gov/nceh/vsp/surv/outbreak/2012/january3_queen_mary_2.htm）にあります。同時期にエメラルド・プリンセスでもノロが発生し3,235名の乗客中189名（5.84%）乗組員は1,189名中31名(2.61%)が発症したと発表されています。QM2の対応について乗客として目にした断片的事象を記します。船長による正午過ぎのアナウンスなどは寄港日以外は可能な限り録音しており、またデジカメによる撮影時刻などから、それぞれの対策の開始日時はおおよそ推定出来ます。尚、ノロウィルスの伝染は手などから交差感染による経口感染であり、まれに空気感染もあるとのことで発病してから二日ほどでほぼ治癒するとのこと。また公室での乗客の手の消毒剤としては陸上と同じようにエタノール系が使われますが消毒薬はあくまでも一時的な対応策であり、清水での手洗いが必要であることが繰り返しアナウンスされていました。

今回の航海の直前の航路は12月15日サウサンプトン発NY行7日間の大西洋航路でした。そしてカリブ海クルーズはほぼ満室と思われる2,611名

(2,613 名という数字もある)内子供は約 200 名、英国人は 841 名であり英国人などのヨーロッパ諸国の乗客の多くは引き続き東向きの大西洋横断でサウサンプトンまで乗船したものと思われます。船員は 1,255 名。発症は CDC 発表では乗客 204 名(7.81%)、船員 16 名(1.27%)となっています。

私達が記録出来た船内の様子や乗客として目にできた QM2 の対応策については下記の表の通りです。

(12 月 26 日　9:20)
最初の寄港地で救急車が待機。
(対象がノロウィルス患者かは不明)

(12 月 28 日　20:53)
デッキ 9 のキャビンから病人が医務室へ移送される。(病人がノロウィルス患者かは不明)

この表は、時系列で当方が確認した事象と若干の感想をコメントとして入れています。

当方が認識した日時・時刻など	事 象 な ど	備　　考
2012/12/22 昼 乗船時	部屋に用意されていたデイリープログラムでレストランエリアでの注意事項(皿やトングは所定のものを使う)などがアナウンスされている	一般的な注意事項の文章であり、緊急性は読み取れない
2012/12/22 昼	指定レストラン、クィーンズグリルの食卓には、まだ塩・コショーの銀器がおいてある※	対策プロトコル実施は発令されていないか、低レベルにとどまっていた？
2012/12/22 夕刻	翌日 23 日付のデイリープログラムでキッチンを含む舞台裏見学ツアー(有料、航海日に実施予定)募集が告知される	不特定多数の乗客を公室以外の部分に案内することからデイリープログラム原稿準備時間を考えてもノロ対策はまだ取られていなかった？
2012/12/23 朝 6:39	ブッフェレストラン、キングスコートの**飲み物スタンド周辺にはバリアが設置され勝手にセルフサービスできない状態**	
2012/12/23 朝	**この日から(？)、エタノール系消毒薬の設置場所がレストラン区画入り口の通路の中央になった。**	通常は、歩行や車椅子利用者の妨げにならないよう、少し脇にスタンドが置かれるが、わざと通行のじゃまになるほど関門を設ける形となった
2012/12/23 朝 7:02	プリンセスグリルでは、まだ砂糖壺は撤去されていない	
2012/12/23 朝 9:30	この時点ではまだ、コンシエルジュにパンと飲み物は用意されている	
2012/12/23 夕 6:30	**キャプテン主催の歓迎カクテルパーティーで受付にて船長は握手しない旨の表示がされた案内あり。「heightened sanitation protocols」が使用されている。**	対策プログラムが発令された？が低レベル？ **過去に、握手を省略する船長(現コモドール)がいた**ので気にならなかった。尚、握手省略は記念写真販売の為もありキュナード船では珍しい。
2012/12/23 夜	**翌日 24 日のデイリープログラムでブッフェレストランでの消毒薬の使用の要請が記載されている。消毒薬は手洗いの代わりになるものではないので、あらゆる機会に水での手洗いを励行するよう但し書きがある。**	
2012/12/23 夜 23:43	指定レストラン、ブリタニアレストランの食卓にはまだ塩・コショーの銀器が置かれている	対策プログラムが発令された？が低レベル？か周知徹底に時間がかかっていたのか？
2012/12/24 朝 9:01	クィーンズグリルではまだ砂糖壺、塩・コショーの銀器は使用されている	
2012/12/24 朝 10 時過ぎ	**図書室で消毒薬で棚を拭いているのを見かけた。図書室と隣接する売店は航海終了時まで通常営業は続けられた。**	本には直接スプレーはしないし、できないとのこと

2012/12/24 朝 10:50	トイレのドアが常時オープンされているデッキ 2 のゴールデンライオンパブ近くほか(※)	対策プログラムのレベルがさらに上がった?
2012/12/24 朝	この頃から、船内のてすり部分はオープンデッキもふくめ頻繁に拭き掃除がおこなわれるようになる。	クルーズ終了時まで続けられる
2012/12/24 朝 11:27	レクチャールームが幾つかにわかれ設置されているコネクションズ(区画名 ConneXions) 前の飲み物サービスステーション(通常はセルフ)が閉鎖されている	(コストダウンで最初から?) サーバーなどの設備は残っているためセルフではなく人を貼り付けるには配置できる要員が不足したためか?
2012/12/24 朝 11:29	デッキ 2 船首側にあるロイヤルコートシアターの外側にある通路沿いに設置されている複数のゲーム台からゲーム類は撤去されているが、まだ断りと注意書きは置かれていない	注意書きの印刷が間に合っていない?
2012/12/24 昼	正午のアナウンス。ノロに触れている。ノロの手すり、ドアハンドル、エレベーターボタンなどからの感染方法と注意事項、手洗い励行、トイレは自室を利用などの協力要請	
2012/12/24 昼	コンシェルジュでセルフでの軽食のサービスがされなくなり、雑誌類も撤去	セルフサービスや不特定多数が手に触れるものは全面撤去のプロトコルがあるとおもえる。
2012/12/24 昼 13:17	クィーンズグリルから 塩・コショーの銀器が撤去され 紙パック品となる ただしクィーンズグリルでの砂糖壺は撤去されていない(航海中ずっと。紙パック品も用意はされてはいる)	対策プロトコルのレベルがさらに一段と上がった? 砂糖壺の撤去は最後まで行われず(マニュアルにない?)、尚ブッフェでの砂糖は通常紙パック品が使用される。
2012/12/24 付け	船医名で、ノロと思われる症状の患者が増えているので、UK Health Protection Agency (HPA) の指導下で作成されている衛生プログラムに従い、船内体制を強化する。手洗いを励行する旨の案内が書面で配布される	文書での具体的な情報提供と案内は航海中この一回のみであった(デイリープログラムでは消毒薬使用と手洗い励行と異常時の連絡要請に絞られていた)
2012/12/24 夜 18:43	クィーンズグリルでは、塩・コショーは紙パックのまま	航海終了時まで
2012/12/24 夜 20:24	アトリウムでおこなわれたクリスマスイヴの賛美歌の歌集は回収されなかった	使い捨て?それとも回収しても焼却されるだけだからか?
2012/12/24 夜 21:37	デッキ 2 ロイヤルコートシアター外側の通路のゲーム台にゲーム類の撤去について案内カードが置かれている	撤去理由の説明カードが印刷upした。航海終了時まで撤去が続いた。
2012/12/25 午前0時過ぎ	カトリックミサで司祭はブルーのゴム手袋を着用し聖体拝領をおこなった	対策プロトコル?
2012/12/25 朝 9:56	外部へのドアが開放されている	船内の空気を少しでも排気する
2012/12/25 朝 9:56	飲食スペース以外でも人が集まりやすいところに消毒スタンドが設置されている(ブリッジ後方見学通路など)	
2012/12/25 昼前	クィーンズルームで開催されたクリスマスパーティーで子供へのキュナードからのクリスマスプレゼント手渡しなどでは特に対策はなされず、床の上に座ってプレゼントを開けて遊ぶ子供もいた	クリスマス行事は中止出来なかった?幼児はプレゼントされたおもちゃ類などを口に含む可能性もある。
2012/12/25 12:01 PM	船長の正午のアナウンス。ノロに触れている。感染の拡大防止に努めている旨	
2012/12/26 朝 7:09	(船内 TV のエンターテイメント司会者レイ氏と医療スタッフとの対話番組では特に船内で起きているノロには具体的には触れられていないようだった。)	(部分しか視聴していないため詳細不明)
2012/12/26 朝 9:20	セントキッツ港桟橋に救急車が横付けされている。	(救急患者がノロかどうかは不明)
2012/12/26 午後 13:40	デッキ 7 ウィンターガーデン(ラウンジの一つ)後ろのトイレのドアが開放されている	
2012/12/26 午後 14:41	先行予約コーナーからパンフレットが撤去されている	不特定多数が手に触れるものは撤去
2012/12/26 午後 14:46	デッキ 2、ロイヤルコートシアター外側の通路のゲーム台に注意書きが引き続き置かれている	

2012/12/26 午後 14:49	デッキ 2、ロイヤルコートシアター後側のトイレが開放されている	
2012/12/26 午後 17:36	**デッキ 6 船尾のプールは禁止されていない**	**航海最終まで他のプールも含めプール使用禁止令は出なかった**
2012/12/26 午後 21:33	同上	同上
2012/12/27 午後 14:38	**デッキ 7 の船尾にあるプリンセスグリル入り口前に送風機が置かれ運転。(デッキ 8 後方のドアもオープン)午前から？夜間も引き続き送風が続く。**	この位置にはプロムナードデッキへ出るドアがあり、さらに前方船首側にはブッフェレストランがある。プリンセスグリルの窓はハメ殺しでオープンできないが、このグリルの横はデッキ 8 の外部へ続く階段があり、**送風の目的はブッフェ区画の空気をデッキ 8 の船尾から船外へ排気することである**と思われた。
2012/12/27 午後 17:54	デッキ 8 船尾のトッズ・イングリッシュ横の階段の上部ドアが開放されている(上記の風の通り道)	上記デッキ 7 の階段からあがってくる空気を船尾から船外に出す。
2012/12/27 午後 18:03	デッキ 7 クィーンズグリル近くのトイレのドアが開放されている	前述
2012/12/27 夕刻	**写真売り場では写真を探すとき、ゴム手袋の着用が求められることになった**	
2012/12/27 夜	**翌日 28 日のデイリープログラムでブッフェレストランでの消毒薬の使用、使ったトングは元に戻す要請が記載されている**	**消毒薬は手洗いの代わりになるものではないので、あらゆる機会に水での手洗いを励行するよう但し書きが付いている。**
2012/12/28 午後 15:26	**ルームサービスでは陶器製の塩・コショー入れが使われている。※**	徹底できていない？ それともいちいち入れ替える？(マニュアルにない？)
2012/12/28 午後 15:58	**アトリウムのカーペットに消毒薬を散布する従業員を目撃。このころからクィーンズルームの椅子が消毒薬でベタベタしだす**	対策プログラムのレベルがさらにより一段と上がった？
2012/12/28 午後	**写真売場にバリアがもうけられる作業がおこなわれていた**	対策プロトコルのレベルが最高レベルに上がった？ かなりたってからのバリア設置なので、徹底出来ていない？(マニュアルになかった？)
2012/12/28 午後 19:25	**写真売場にバリアがもうけられ"写真を直接さわらないこと"の注意書き掲示**	素早く探したい人には顔認証システムスタンドを利用するアドヴァイスは最初から案内されていた。ただし、**このサーチマシン自体も逆に不特定多数がパネルに触ることになる。**
2012/12/28 夜	**翌日 29 日のデイリープログラムでブッフェレストランでの消毒薬の使用、使ったトングは元に戻す要請が記載されている**	消毒薬は手洗いの代わりになるものではないので、あらゆる機会に水での手洗いを励行するよう但し書きが付いている。
2012/12/28 午後 20:53	9階乗客が客室より担架で担ぎ出されるのを目撃(原因は不明)	
2012/12/29 午前 7:13	**ブッフェレストランの飲み物ステーションは厳重な体制**	
2012/12/29 午後 16:11	**クィーンズグリル・ラウンジでのアフタヌーンティでは砂糖壺がでている**	徹底出来ていない？(マニュアルにない？)
2012/12/29 午後 17:23	デッキ 6 船尾のプールほか**プールは禁止されていない**	
2012/12/29 午後 17:45	**船長の出港時のアナウンス。ノロに触れている。「直近 24 時間で患者数は減っているがまだ若干の人が残っており、消毒プログラムを引き続きおこなう。異常があればメディカル・チームがサポートするので連絡して欲しい。」**	
2012/12/29 午後 19:03	**エレベーター内手すりの木部塗装が消毒薬ではげている状態となった**	
2012/12/29 午後 19:31	**グリルでのオリーブオイルの瓶は変更なし**	通常は置かれていないが必要に応じ持ってきてもらう瓶。徹底出来ていない？(マニュアルにない？)
2012/12/29 夜	**翌日 30 日のデイリープログラムでブッフェレストランでの消毒薬の使用、使ったトングは元に戻す要請が記載されている**	

2012/12/29 午後 22 時過ぎ	**船尾 Deck6 ではデッキパーティーが予定通り開催される**	
2012/12/30 午前 8:32	コモドアクラブ（船首でデッキ 9 にあるラウンジ）横のトイレドア開放されている	
2012/12/30 午後 14:06	クィーンズグリルでの砂糖壺はまだ撤去されていない	
2012/12/30 午後 18:02	**Deck6 船尾ほかのプールは引き続き使用禁止されていない**	
2012/12/31 12:04 PM	船長の正午のアナウンス。ノロに触れている。「直近 24 時間では1名の発症に留まる。だが昨日は発症した人はパブリックスペースへの出入りは遠慮してもらった。パブリックトイレは引き続き使わない、大晦日・新年のパーティーでの握手は伝染の可能性があるので注意。手洗いは20秒以上水で流すよう」要請。	
2012/12/31 午後 16:17	**クィーンズルームへ続く廊下の床のカーペットに消毒薬散布作業を目撃**	
2012/12/31 午後 16:18	クィーンズルーム外側のトイレのドアが開放されている	
2013/1/1 ？(1/1 朝？)	リピーター乗客の World Club パーティーが開催されないことの詫び状が届く	開催中止は「ノロウイルス対策のため」が理由とのこと
2013/1/1 午後 16:37	**キングスコートでは、食べ物を外に持って行かないよう注意が表示されている**	
2013/1/2 午前 11 時	写真売り場ではテープバリアが撤去され写真を直接触って探すことができる状態に戻った。かつブルーの使い捨てゴム手袋も一応は用意されていたが着用は各自の判断に委ねられた。	写真業者にとっては最後の稼ぎどきではあるが、ノロ感染はほぼ収束し、安全宣言？が出されたとも解釈できる。
2013/1/2 12:01 PM	船長の正午のアナウンス。ノロに触れている。フラストレーションへのお詫び、クルー、メディカル・チーム努力に感謝、乗客への協力に感謝。NY到着後消毒をおこなう旨	
2013/1/2 16:58 PM	**トッズ・イングリッシュでは 塩・コショーの銀器が使われている**	
2013/1/2 夜	**一度人が触れたメニューは廃棄する方針なのでグリルレストランでは恒例の航海中のメニューをまとめての乗客へのプレゼントはなかった** **この日の閉店時刻まで、写真売り場以外のショップは通常どおりの営業を行った**	実際のところは同時に複数テーブルで食事中の場合、メニューが混在したり、デザート選択時は他の人が触ったメニューが回ってくることはあった。 ショップでは他の人が触ったであろう商品が並べられている。
2013/1/3 朝	船内消毒のため英国まで連続乗船する乗客も全員が下船する。昼食はキュナード社提携の Marriott ホテルでキュナードが用意するとのこと（バス便手配あり）	
2013/1/3 朝	乗船開始時刻が約4時間の遅れの午後4時からとなるとのこと	

※ パブリックスペースのトイレのドアが開けてあるという状態は、このトイレは使用しないでほしいという意味である。 塩・コショーは指定レストランではウェイターが配膳時に、乗客の好みに合わせグラインダーを用いてフレッシュペッパーをふりかけてくれるのでテーブルの瓶は補完的に使用する程度にすぎない。

概要として乗船三日目朝からノロ対策プロトコルが目に見えるかたちで実施されましたから二日目には相当数の人が発病していたことになります。一方で英国から到着した時点の初日には乗船時には際立った注意がなかったことや、目に見える対策がおこなわれていなかったことから、患者の大量発生の原因が一週間前に出発した英国からの乗客・船員が持ち込んだものなのか、それとも NY からの乗客や NY で上陸した船員が原因なのかは微妙なところです。三日目から具体的に目に入るようになったノロ対策の諸策は順次拡大適用されたとはいえ、広大な船内なので対策が行き届くまで時間が必要だったでしょう。

六日目、七日目には船内いたるところで対策が打たれていることが確認出来ました。ダンスフロアに顔なじみのカナダ人乗客が姿を見せないなど、この頃が自室に閉じこもって静養している乗客が一番多かったように思います。航海八日目、九日目には少し沈静化してきたようで、船内でノロ発生が公表されてから一週間弱で感染の拡大は食い止められ、かかっていた患者も順次回復していったように思われます。

(12月28日　15:58)
アトリウム周辺の床に消毒薬散布作業。

船内の衛生基準に関しては固定設備では厳しく細かい基準があり、英国や米国の政府関係機関も定期検査を行うなど船内の衛生管理に注力しています。しかしながら主に手からの経口感染で事実上自然治癒しか方法がないノロ感染ですから船として対応できることには限界があります。基本は乗客一人一人が「罹らないよう注意する」「万が一自分が保菌者かもしれないため他人にうつさないよう細心の注意を払って船内生活を送る」ことです。

(12月23日 7:26 AM)
乗船二日目の朝。消毒薬スタンドがいつもと違いレストラン区画入り口の中央に置かれているが、この時点ではノロに関するアナウンスはなかった。

(12月23日 朝　例)
乗船二日目、ブッフェ区画のコーヒースタンドは直接操作できなくなっていた（航海終了時まで続く）。事情はまだアナウンスされていなかった。

(12月23日 9:28 AM)
コンシェルジュではまだセルフサービスが出来る状態であり、セルフサービス停止の指示が届いていなかったようだ。

(12月23日　18:27)
ウェルカムパーティー入り口の掲示。**heightened** sanitation protocols のため船長との握手はしない旨の断り書き。この時点ではノロウィルスの文字は表示されていない。

(12月24日　11:29)
遊歩道のゲームテーブルからゲーム類は撤去されているが、この時点で特に断り書きはない。

(12月24日　21:37)
ゲーム類は **enhanced** sanitation protocols により撤去された旨の断り書きが置かれていた。

＜レストランでの対応＞

今回はクリスマスシーズンで乗客に子供が約200 人と多かったことと、せっかくのクリスマス休暇クルーズの楽しみを台無しにしてはいけないというサービス提供と、どの程度まで乗客の快適さを犠牲にしてよいか？という判断のせめぎ合いがあったかもしれませんが、船としてはクルーズの楽しみを確保しながらの対策がなされたと評価できます。しかしながらクルーズ船というものは一つの街にたとえられるだけあって対策をマニュアル化しただけでは末端の細かいことまで完璧に対策が打てるものでもないこともわかりました。

たとえば、ブッフェレストランでは用意してある食器は必ず係員から受け取るかたちになり、料理を自分の皿にとる際は係員がサーブしてくれる場合が大半となりましたが、他の人が触ったトングを使うことになる場合もあり得るため感染の可能性を完全に除去できないこともあります。そのためブッフェ利用を極力避け指定レストランで食事をとるよう何回もアナウンスが行われました。指定レストランでは一度他人が触ったメニューは再利用しないという運用となりましたが、デザートの段階では他の人が触ったメニューを手にする可能性は大いにありました。テーブル上の塩コショーの瓶は撤去されましたが、ルームサービスや一部の有料レストランでは適用されていなかったり、砂糖壺や一部の瓶は従来通り使用が続けられました。

(12 月 23 日　8:16)
レストランでは洋銀製の塩・コショー入れがいつもどおり置かれている。尚スプーンの柄がみえる砂糖壺は航海終了時まで撤去されなかった。

(12 月 28 日　15:29)
ルームサービスでは塩コショーは陶器製のものが使用されている。いちいち洗浄するとは考えにくい。

(12 月 24 日　11:27)
レストランでは塩・コショーが紙パック品になった。

(12 月 30 日　21:18)
レストランのワゴン調理では不細工な手袋が着用されることは一切なかった。オレンジ・ピール作業中。

(2013 年 1 月 1 日　16:37)
ブッフェ区画ではブッフェ区画からオープンデッキへ食べ物を持ち出さない依頼。

エレベーターのボタンや船内各所に設けられている手すりは頻繁に清掃がおこなわれましたが100%安心とはならないのは仕方ありません。また最後まで疑問が残ったのはプールやスパが使用でき、ショップが通常どおり営業していたことです。(写真売り場のみ規制あり。)プールまで閉鎖すると乗客の不満が爆発することを船側が考慮したのでしょうか？スパはキャニオンランチ、各ショップは販売責任者の判断により営業が続けられたのでしょうか？まるでノロウィルスなど存在しない空間のように、何の対策もうかがえませんでした。対策プロトコル上は使用可となっていたのかは不明ですが。

(12 月 29 日　19:03)
消毒薬で度重なる拭き掃除が行われ塗装がはげたエレベーター内の手すり。金属部分も少し変色。

(12 月 26 日　17:36)
航海中は一度も使用が禁止されなかったプール

(12 月 28 日　19:25)
テープバリアが設置された記念写真売り場。
（後に手袋着用となり、1 月 2 日には警戒は解かれた）

写真売り場で、写真に触る際に使用が義務づけされた手袋

手の接触からの感染の可能性説明をし、船長主催のパーティーでの船長との握手も取りやめ、カトリックミサの聖体拝領では司祭がブルーの手袋を着用していながら、ウェイターや不特定多数の婦人を相手に踊るダンスホストの手袋着用は最後までありませんでした。パーティーでの乗客同士の握手などは感染のおそれがあるので手洗いを励行するようにとの船長の案内もありましたが実際のところは不特定多数がふれあうイヴェントは開催し続けられました。

(12 月 25 日 11:20)
キュナードから
17 歳以下の子供への
クリスマスプレゼント。
手渡し時も含め特段の
対策はされていない。

(12 月 27 日　22:10)
テーマ・ボール
（マスカレード）では
不特定多数の参加者が触れ合う。

(12 月 28 日　9:48)
テンダーの手すりは
拭き掃除はされなかった。
船内の清掃だけでは
完璧ではないが
作業的には無理かもしれない。

(12 月 28 日　13:00)
上陸しての観光中の
ラム酒の試飲では、
不特定多数が瓶に触れる。
船外のオプショナルの
行動までは船として
責任はとれないし
自己責任だろうが。

＜リピーター・パーティの中止＞

キュナードでは通常、リピーター客を招いた船長主催のカクテルパーティーが2回、ゴールド会員以上を対象とプラチナ会員以上を対象にフォーマル指定日に開催されます。しかしこれらは今回のクルーズでは中止となりました。不開催の理由は「ノロウィルスの為」との案内が終盤になって届きましたが、開催できるはずだった日や前後の夜には他のイヴェントは開催されました。開催できそうな日の会場に他の予定は入っていませんでしたし、船長他の上級船員がノロ対策で忙殺されたとはいえ夕刻に一時間、パーティー自体の所要時間は30 分強ほど時間を割くことができない状態ではなかったことは明白です。船長は元旦のディナー時には夫人を伴いレストランに挨拶回りをしていたこともあります。

多くのリピーターの乗船の最大の楽しみはシアターでの変わりばえのしないショーなどではなく、たった30分強のカクテルパーティーにおいてキュナードファンや上級船員や従業員と同じフロア上で語り合うことにあります。船長も威厳を保ちながらもシアターの壇上からの一方通行などではないサービス精神を発揮するなど、上級船員の人柄に触れることができる楽しいひと時なのです。乗船客のうち乗船最長日数の乗客が名前と出身地と日数と形だけの記念品を添えて紹介される瞬間がハイライトとなるパーティーです。乗船歴を競わせて長期的のリピーターとする販売促進の意味もあります。

何故開催されなかったのかは推測に過ぎませんが、イヴェント担当の全体のスケジュール立案においてドレスコードの設定日変更があったこと(これについては改めて論じたい)もあわせてミスがあったのかもしれません。もしくは何らかのイヴェントをノロ対策のために中止したという実績作りが必要だったのか、それともイヴェント担当とメディカル担当の意思の疎通が悪かったのか本当のところは解りません。毎日船内で開催されるイヴェントの中では食器類や手からの感染の危険性が少ないパーティー形式なのですから、航海のスケジュールとノロの収束状況からしても「ノロウィルス対策が理由」で開催できなかったという説明は説得力に欠けるものでした。

当然ながらリピーター客の多くはこの結果に納得せず、むしろ「サービス低下」ととらえ、「もはやキュナードはキュナードではなくなった」とまで怒っていました。

＜それでもクルーズを楽しむ方法＞

私達が如何にこのクルーズを楽しんだかについても触れておきましょう。ノロ自体は感染しても死亡する可能性が少ないことは知っていましたし、レストラン要員は衛生管理に余念がないはずです。

(12 月 27 日　14:38)
デッキ 7、ブッフェレストラン区画の後方外側では外気を取り入れながらブッフェ区画の空気を船尾方向に向かって排気させる作業が始まった。

食器やリネンの洗浄や船内の清水も問題ないはずです。グレーウォーターを浄化した水でのオープンデッキの清掃は水質上問題ないと判断されているためか続けられていました。レストラン要員やバックヤードの衛生状態を信頼する以上(陸上での生活でも感染の可能性はあるのですから)無理に萎縮する必要はなく、自分自身の判断で近寄らないほうがよいエリア等を考えたうえですが、結果的には普段と同じ船内生活を続けました。いつものようにクィーンズルームで社交ダンスを楽しみ、他の客達と手をつないだり、ハグするなどのゲームにも積極的に参加しました。

船側の情報開示については不必要に乗客を不安がらせぬようオブラートに包んだような説明になったのでしょう。しかしネット社会ですから 28 日(米国時間)には既に情報が世界中に流れたこともあり、乗客により安心感を与えるとともに協力を求めるため、普段から船側がおこなっている対策と追加対策を印刷物上で案内すべきだったと思います。船長の船内アナウンスは適宜おこなわれましたがメディカル担当からの書面での案内はレター

サイズ一枚が一回だけでした。一番詳しい説明は英語でおこなわれた船長の船内放送でしたが、ドイツ語とフランス語訳ではノロに関しての細かい部分は簡略化して説明される場合もありました。通訳担当者の逐次翻訳作業準備の余裕がなかったのだと思われます。

感染の拡大防止の最大の方策は、船長が繰り返し要請しているとおり乗客自身の衛生管理と協力です。毎晩同じ場所でくつろぐ幾人かが顔を見せなかったりで、おおよその感染患者数の割合は想像できました。それらの人が数日後、げっそりやせて顔を見せたときには病気には触れず自然体で挨拶を交わすなど社交生活は良好に続きました。なにしろクルーズ慣れした大人の集まりであるQM2 の船上生活ですからノロが理由でクルーズはコリゴリだという人はほとんどいなかったと思います。そういう意味では、ノロ対策においては乗客の対応は良かったと結論出来るのですが、船内でのノロ対策には限界があるということも確認できたクルーズでした。

寄港地での清水の購入は当方が確認できた午前から昼ごろまでの時間帯ではどの港でもおこなわれていませんでした。

QM2 の建造や運営には田中が調べた範囲で判明した分だけでも約 450 社の製品が使用されており、その全てが船内生活に直接・間接にかかわっているわけです。QM2 で採用されている、今回のノロ騒動で直接関係したと思われる清掃や設備関連の製品名と会社名をあげておきます。

キャビンの清掃で使用されている洗剤類。VIROX, OASIS など。

キャビンの清掃で使用されている用途ごとに色分けされたモップ。

社名、履歴など（日本法人があるものは併記）	主たる納入品	確認根拠
Alfa Laval Corporate AB（瑞典） アルファ・ラバル株式会社	製水機(fresh water)と油分のある汚水の浄化器 evaporator 630tonnes/d x 3 台	ナ、ホ
Alliance Laundry Systems LLC（米） Alliance Laundry Holdings LLC 傘下。現在は教員の年金ファンド Ontario Teacher's Pension Plan が主要株主。	Cissell® ブランドのリネン乾燥機	ナ
Allied International Trading Limited	使い捨てビニール手袋 (Supertouch®)	現
BLÜCHER Metal A/S（丁抹）	排水管、デッキ排水、black water、Drain Marine、EuroPipe®	ナ, ホ
BÖWE Textile Cleaning GmbH（独） **<BÖWE PASSAT>** 2010 Ziermann Holding GmbH に企業買収される	洗濯機	ビデオ
Bowman Manufacturing Company, Inc.（米）	レストランギャレーでの調理用手袋	現
CASE CHEMICALS Ltd.（英） Case Chemical Consultancy Limited UK の子会社	洗剤	現
Diversey, Inc.（米） **ディバーシー合同会社** **(Virox Technologies Inc.)**	ホテル部門で使用されているクリーナーVIROX MULTI-PURPOSE CLEANER WIPES (VIROX は Virox Technologies Inc. の抗菌消毒技術の開発元) Virox®を使ったクリーナーの販売元	現
Ecolab Inc.（米） エコラボ株式会社 (Ecolab K.K.)	空気センサー、 消毒薬、トイレ洗浄剤 Oasis	現
EDRO Corporation（米）	洗濯機 DynaWash®	ナ、ホ

GOJO Industries, Inc. (米) ゴージョージャパン株式会社	消毒薬　PURELL®	現
Kränzle GmbH (独) 日本クランツレ株式会社	高圧洗浄機　The small Kränzle quadros	現
Lawrence Metal Products, Inc. (米) Tensator　Ltd. の米国の子会社	区画設定布ベルト、Tensabarrie®完成設置品	現
Nilfisk-Advance A/S (丁抹) **<Nilfisk-ALTO>** ニルフィスクジャパン株式会社	高圧洗浄機　POSEIDON 3－３０XT	現
Orelis S.A.S. (仏) 納入時はRhodia S.A.(仏)の傘下、2004にGroupe Novasep SAS(仏)の傘下となる。2008にORELIS ENVIRONMENT SASに社名変更	メンブレン式浄水器　Pleiade®	ナ
RENZACCI S.p.A (伊)	洗濯機	ナ
Rothenburg GmbH (独)	食品残渣真空処理システム　(Scanship社と共同納入)	ナ、ホ
SAN JAMAR (米)	色分けされた清掃用バケツ、Kleen-Pail®Kleen-Color™ System	現
Scanship AS (諾)　(Scanship Environmental)	食品残渣真の水分分離から焼却炉までの装置 (焼却炉の制御プログラムはオムロン製)	ナ、ホ、DNV
UltraClenz, LLC (米)	ハンド衛生システム　PRO-Giene system	QM2専用船内ポスター
Uson Marine AB (瑞西)	排水の油分分離装置	ナ

確認根拠略号：　ナ；Naval Architect　QM2特集号、　ホ；各社ホームページによる納入履歴、　現；筆者現品確認、ビデオ；images（写真販売業者）編集の船内で販売されているビデオ、 DNV;DET NORSKE VERITAS

QM2のノロウィルス対応について動画ではキュナードがPRとして情報公開に協力していると思える「Inside Queen Mary2 p4」http://www.youtube.com/watch?v=rMHN_psnosU の部分で知ることができます。ワーナー船長の姿がありますからそう古い時点の映像ではないようです。プロモーションビデオなので客室や公室の画像が都合よく編集されていますが、モデル的な対応策を知るには良い動画です。今回はこの動画にあるような発症者が出た部屋や区画のドアにイエローテープが貼られるようなことは目には入りませんでした。

このようにもともと楽観的な私達は、ノロウィルスもクルーズ研究の好機とばかりに資料収集や調査をしました。ですがこの伝染病発生の要因のひとつがカーニヴァルのコストカットによるものではあるまいかとの疑念も生じました。というのも2010年秋に私達の担当バトラーだったフィリピン人乗員が、今回のクルーズ初日に再会するなり「近頃のコストカットはひどすぎる。船との契約が半年後に終わったら私はこの仕事を辞める」と囁いた言葉が忘れられないためです。もしかしたら私達乗客の目に触れないところで行われているコストカットがベテラン乗員に大きな危機感を与えているのではあるまいか？だとしたら「ノロウィルス」騒ぎは、大災害の「序章」なのでは？—これが杞憂にすぎないことを私達は心から願っております。